

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 70人

② 算数 67人

5 留意事項

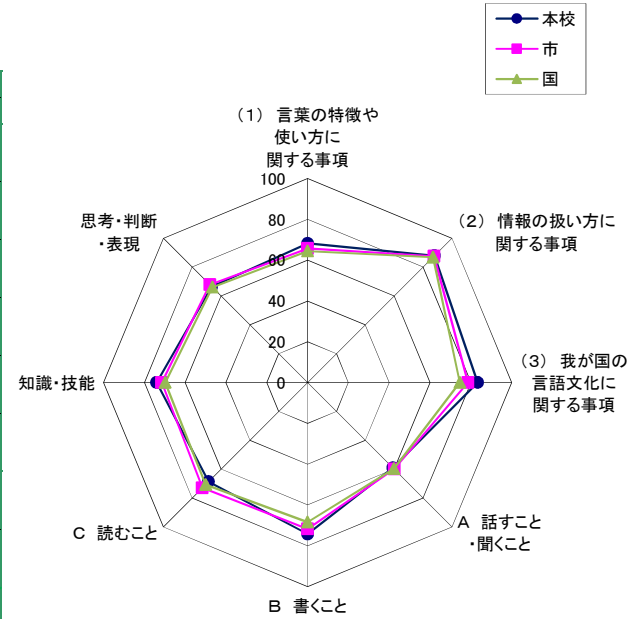
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	87.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	59.1	59.9	59.8
	B 書くこと	74.2	71.8	68.4
	C 読むこと	68.7	72.9	70.7
観点	知識・技能	74.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.5	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

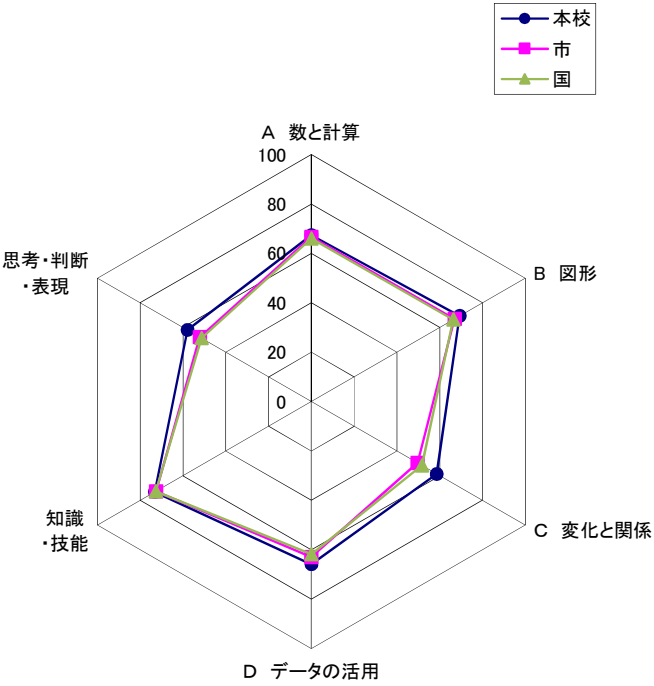
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を8.9ポイント上回っている。	●今後も学習の中で、主語と述語を見付ける活動を取り入れるとともに、読書を推奨し文章を読む機会を増やして、言語の使い方に慣れ親しませていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の正答率は、全国や市の平均正答率と同等である。 ○「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率と同等である。	●文章だけでなく、図や表などからも情報と情報の関係を読み取ることができるよう国語だけでなく、社会科や理科の授業などでも積極的に情報を読み取る機会を増やし、定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を8.7ポイント上回っている。	●今後もファミリー読書を推進し、望ましい読書習慣を形成し、確かな知識と豊かな心を養うことができるようにしていく。 ●朝の活動の時間における読書タイムや読み聞かせを通して、読書活動を推進していく。
A 話すこと・聞くこと	●「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国や市の平均正答率をやや下回っている。 ●「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問では、全国・県・市全ての平均正答率を下回っており、値も50%と低い。 ○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」設問では、全国・県・市全ての平均正答率を上回り、県の平均正答率を4.2ポイント上回っている。	●互いの考えをよく聞いて共通点や相違点を整理したり、資料を活用したりしながら伝え合えるように、授業や日常生活の様々な場面で情報交換や意見交換、討論の場を設定し、指導する。 ●自分の考えが聞き手に伝わるようにするために、話す内容に適した資料の準備や提示の仕方の工夫等に着目させるとともに、聞き手のうなずきや表情にも注意させ相手を意識して取り組み、表現力の向上を図る。
B 書くこと	○「書くこと」の正答率は、全国や県、市の平均正答率を上回っている。 ○「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」記述式の設問では、全国・県・市全ての平均正答率を上回り、全国の平均正答率を8.6ポイントと大きく上回っている。	●自分の考えが明確に伝わる文章を書けるようにするために、作文の際に文の構成や書き表し方に着目する活動を取り入れる。 ●今後も、授業の中で文章を書く機会を多く取り入れたり、日常生活の中で文章を書く機会を増やしたりして、習慣化を図り、スキルの向上を目指していく。
C 読むこと	●「読むこと」の正答率は、全国や県、市の平均正答率を下回っている。 ●3つの設問全てで、市の平均正答率を4ポイント程度下回っている。「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を5.8ポイント下回っている。	●物語などを読む活動では、文章の中から見つけた叙述を結び付けたり、表現面に着目して読み取ったりして、人物像や全体像を具体的に想像し表現する機会を多く取り入れるとともに、記述式の問題に慣らしていく。 ●読書経験を豊富にすることで、今後も文章に触れる機会を増やし、読解力の向上につなげていく。

宇都宮市立城東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.4	66.7	66.0
	B 図形	69.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	58.6	49.6	51.7
	D データの活用	65.9	62.9	61.8
観点	知識・技能	73.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	58.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○「数と計算」の正答率は、全国や市の平均正答率と同等である。 ●「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」設問では、全国平均正答率を9.1ポイント下回っている。問題文の「少ない」という言葉から形式的に立式をして、誤答になっている児童が多く見られた。	・計算技能の定着が見られるので、引き続き定期的な計算等の確認を行いながら、繰り返し計算を練習し、より正確な計算技能が身に付くよう指導を続けていく。 ・数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題場面を図や表に表して数量の関係を捉え、式に表すことができるように指導していく。
B 図形	○「図形」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ●「直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」設問では、全国平均正答率を6.7ポイント下回っている。図形を構成する要素やそれらの位置関係を捉えられていない児童が多いことが考えられる。	・図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、問題の解決ができるように、図形をかく時間を授業時間中に確保していく。 ・図形を構成する要素やそれらの位置関係等は、デジタル教科書やタブレットを用いて視覚的、体験的に捉えさせることで、理解を深めていく。また、児童の理解に応じて教材を工夫したり、作図を練習する機会を設けたりする等、指導の充実に努める。
C 変化と関係	○「変化と関係」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる」設問では、全国平均正答率を13.3ポイント、県の平均正答率を15.4ポイント上回っている。 ●「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、全国や県の平均正答率を上回っているが、正答率が33.3%と低い。	・場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する道のりや、一定の道のりを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにするために、図や式を関連させる指導を心掛けていく。
D データの活用	○「データの活用」の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取るかどうかをみる」設問では、全国や県の平均正答率と同等である。 ●「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、全国や県の平均正答率を上回っているが、正答率が48.5%と低い。	・「データの活用」では、定着が見られた。今後も、データから必要な情報や数値を選び、計算し答えを求める問題に取り組むことで、さらなる習熟を図りたい。 ・グラフを読み取り、見出したことを表現する活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「普段1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしますか」の質問に、「4時間以上」と回答した児童の割合と、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した児童の割合が、それぞれ全国及び県の平均を上回っており、二極化している状況が見られる。今後も適切な携帯電話やスマートフォンの使用について指導を続けていきたい。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約6ポイント上回っている。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約11ポイント上回っている。多くの児童が自己肯定感が高く、将来への希望に満ちていることが伺える。一方、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に否定的な回答をした児童の割合も全国の平均をやや上回っていることから、今後も継続して学校生活の様々な場面で自己肯定感が高まる指導に努めていくとともに、個に応じた指導を充実させていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約17ポイント上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約10ポイント上回っている。児童と教師の良好な関係が築けており、児童は悩みを一人で抱え込まずに、相談できる大人が身近にいることが伺える。学校として、全教職員が普段から児童とのコミュニケーションを積極的に図り、担任以外にも話し掛けやすいような環境づくりに努めていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約11ポイント上回っている。今後も学校生活全体を通して児童を学習面・生活面で支え、児童が安心して楽しく過ごせる学校にしていきたい。

○「新聞を読んでいますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を約7ポイント上回っている。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国の平均を約22ポイント上回っている。社会情勢に関心をもち、よりよくしたいと考える児童が多いことが伺える。今後さらに、地域や日本、世界の現状へ関心を広め、情報収集の技能を高められるよう指導していきたい。

○「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的回答した児童の割合は約12ポイント、「国語の授業の内容がよく分かりますか」の質問については約13ポイント、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については約29ポイント、全国の平均を上回っている。国語への関心が高く、その重要性を理解していることが伺われる。今後も楽しい授業、わかる授業をしっかりと行っていきたい。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は約23ポイント、「算数の勉強は大切だと思いますか」については約11ポイント、「英語の勉強は大切だと思いますか」については約11ポイント、全国の平均を上回っている。学習の大切さについて今後も伝えるとともに、その気持ちを学習の習得につなげられるよう授業を工夫していきたい。

宇都宮市立城東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、昨年度まで「校内漢字・計算検定」を年間10回ずつ実施してきた。今年度からは、各学年で、漢字や計算を中心とする基礎的・基本的な内容について、年間を見通して計画的に練習や確認などを行い、定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を活用して、学年や学級で、プリントやドリル学習などを計画的に実施している。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、全国や県、市の平均正答率と同等であるか上回っている。 算数では、「知識・技能」の観点で、全国や県、市の平均正答率と同等であるか上回っている。しかし、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」設問において、正答率が全国や県、市よりも5ポイント以上下回り、課題が見られる。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して、主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示して、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	「思考・判断・表現」の観点で、全国や県、市の平均正答率と比べて、国語はほぼ同等で、算数は全て上回っていた。 質問紙では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童は、全国や県の肯定的割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」記述式の設問で、県の平均正答率を5.8ポイント下回っており、課題が見られる。 算数では、「思考・判断・表現」の観点の「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」設問や、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」設問で、全国や県、市の平均正答率を上回っているものの、それぞれ33.3%と48.5%と正答率が低く、課題が見られる。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成。	各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実するような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことを考えさせ、目的を意識した文章を書くように指導していく。